

はじめに

京都市では、教職員の意識改革と熱意溢れる教育実践のもと、子どもたちの今と未来を見据えた本市教育のさらなる充実をめざして取組を進めて参りました。その一環として、京都市総合教育センター研究課では、今次改訂学習指導要領の基本方針を踏まえるとともに、学校現場の今日的課題の解決と今後の教育課題に応えるために、8項目の教育研究を積み重ねて参りました。ここに、開発・研究した先行的な実践授業の成果や教育調査の結果などをまとめ、刊行することとなりました。

教科指導については、子どもたちの実態から、つまずきやすい箇所や課題となる箇所を考え、それに対する具体的な支援を進めることが確かな学力をはぐくむことにつながるものとして、研究成果を提案しています。国語科では、単元構想の工夫を通して「書くこと」の指導の在り方を追究した研究。社会科では学習ハンドブックの活用を通して、主体的に資料を読み取り、さらには自分の考えを表現する活動を重視した授業の在り方を追究しました。算数・数学科では、筋道立てて考えたりその考えを表現したりする力をはぐくむことをめざした研究。英語科では、小学校英語活動と連携した中学校第1学年の英語科カリキュラム試案の開発に取り組みました。これらの研究は、子どもの発達や学習内容の系統性を踏まえた小中一貫教育の視点をもつものにもなっています。

また、子どもたちの「自己理解能力・将来設計能力」を育てる生き方探究教育のさらなる充実をめざした研究や、「いのち」を大切にすることをめざした道徳教育の研究に取り組みました。これらの研究は、子どもたち自身が生き方を見つめながら将来を見通し、社会との関わりを考えて行動できる力を育てることをめざしたものです。

さらに、一人一人の子どもの課題を明確にし、LD等の発達障害のある子どもの学力保障に向けた指導を進めるための「個別の指導計画」の在り方についても追究しました。また、実態調査を通じた研究では、生活意識調査の結果から、子どもたちの読書習慣を支える「背景」を探ることを試み、その結果をうけて、若干の提言をしています。

いずれの研究も、学校現場との密接な連携のもと、求められている喫緊の教育課題に取り組んだものです。各学校での教育活動を進める上での実践事例として、あるいは、教育計画作成のための基礎資料として生かしていただけるものと思っています。

本研究紀要が「一人一人の子どもたちを徹底的に大切にする」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに精励されている教職員の方々のお取組の参考に供するところがあれば幸いです。

結びになりましたが、本センター研究課の研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の教職員の皆様、並びに、ご支援いただきました関係者の方々に、心からの御礼を申し上げます。

平成21年3月

京都市総合教育センター
所長 砂田 信夫